

U.S.Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 足下では輸入物価の上昇圧力残存 (05年5月輸入物価) 指標発表日: 05年6月10日(金)
 ~先行き輸入インフレ圧力は鈍化する公算~ (No.U1-044)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: seiji@dri.dai-ichi-life.co.jp)

輸出入物価 (U.S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					自動車	消費財	実効ドルレート
		除石油	工業原料	石油	資本財	消費財			
04/05	+0.4	+1.5	+0.2	+5.1	+9.4	+0.0	+0.0	0.1	+1.6
04/06	0.7	0.2	+0.1	0.3	1.1	0.4	+0.2	+0.0	1.0
04/07	+0.5	+0.4	+0.0	+1.1	+2.3	+0.0	+0.1	+0.0	0.7
04/08	0.5	+1.5	+0.3	+5.0	+8.8	0.1	+0.2	0.1	+0.2
04/09	+0.4	+0.5	+0.1	+1.5	+3.3	0.1	+0.2	+0.0	0.4
04/10	+0.6	+1.6	0.1	+5.0	+11.1	0.2	+0.3	+0.1	1.4
04/11	+0.3	0.3	+0.9	1.3	6.0	+0.1	+0.1	+0.2	2.6
04/12	+0.1	1.4	+0.4	5.1	11.4	+0.3	+0.1	+0.3	1.1
05/01	+0.8	+0.6	+0.3	+1.2	+2.2	+0.3	+0.0	+0.6	+0.6
05/02	+0.1	+0.9	+0.1	+2.2	+5.1	0.1	+0.0	+0.5	+0.2
05/03	+0.7	+2.2	+0.3	+7.0	+13.2	0.2	+0.0	0.3	0.6
05/04	+0.6	+1.2	+0.4	+3.7	+5.4	+0.1	+0.2	+0.0	+0.9
05/05	0.1	1.3	0.3	4.0	6.5	+0.0	0.1	+0.1	0.1

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 末季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

*1:Automotive Vehicles, Parts & Engines

*2:Consumer Goods, excluding Automotives

輸入物価(除く石油)は前月比 0.3%

05年5月の輸入物価(最終財)は、石油・同製品が前月比 6.5%下落したため1.3%(前年同月比+5.7%)と5ヵ月ぶりに前月から下落した。3、4月合計で0.6%ポイント上方改定されたなかで市場予想の同+0.0%を大幅に下回った。一方、輸出物価は同0.1%と9ヵ月ぶりに下落した。

変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は、前月比 0.3%(前年同月比+2.5%)と下落した。消費財(除く自動車)が同+0.1%と伸びが加速したものの、資本財が同0.0%と鈍化し、石油を除く工業原料が同 6.5%、自動車が同 0.1%と下落した。消費財では衣服の下落幅縮小、靴等がプラスに転じたため全体でも上昇ペースが加速した。一方、資本財では通信・音響機器等の上昇ペースが加速し、コンピューターの下落幅が縮小したものの、一般機械が前月比横這いに減速したこと、特殊機械が下落に転じたことから同0.0%と鈍化した。さらに、工業原料(除く石油)では、天然ガス、化学製品等の下落によってマイナスに転じた。加えて、米国内での競争激化を背景に自動車の輸入価格は下落した。

足下で原油価格は1バレル=50ドル台で推移している。また、ドル実効レートも金利格差拡大観測から小幅上昇していることから、輸入物価押し上げ圧力は低下している。しかし、トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では石油が+103.3%とプラス幅が拡大したため、輸入物価は+14.1%とプラス幅が拡大した。一方、変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は+2.5%と伸びが鈍化しているが、工業原料(除く石油)の上昇によって高い伸びが続いており、石油を除く輸入物価でも上昇圧力の強い状態が持続していると判断される。

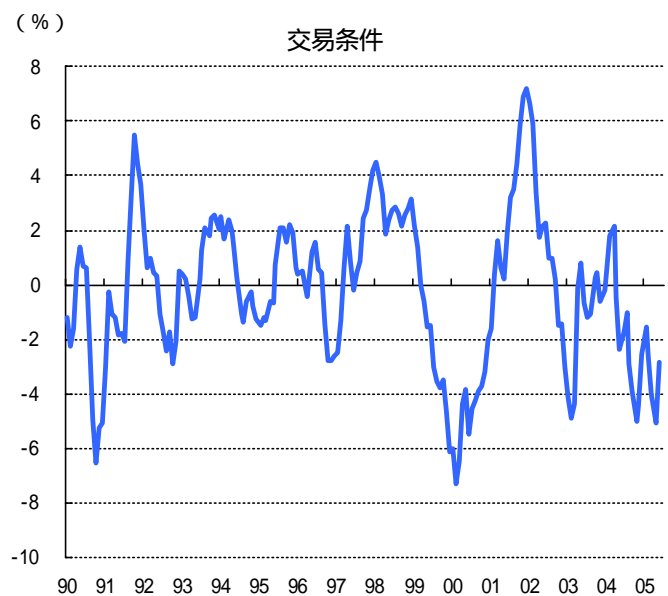
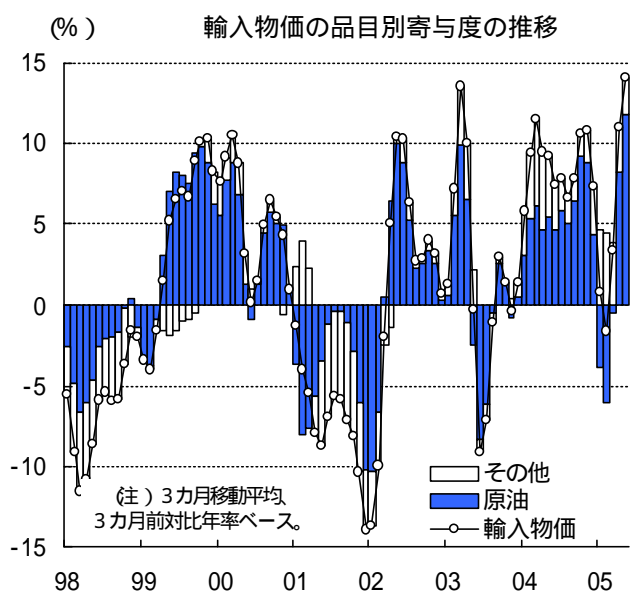
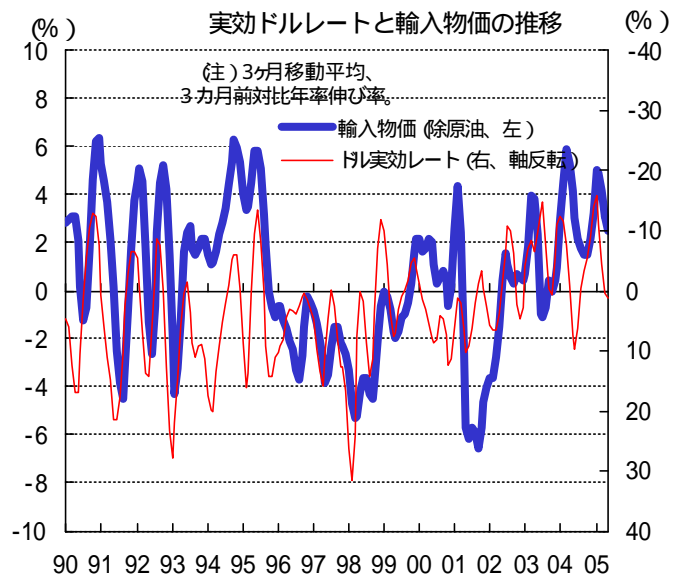
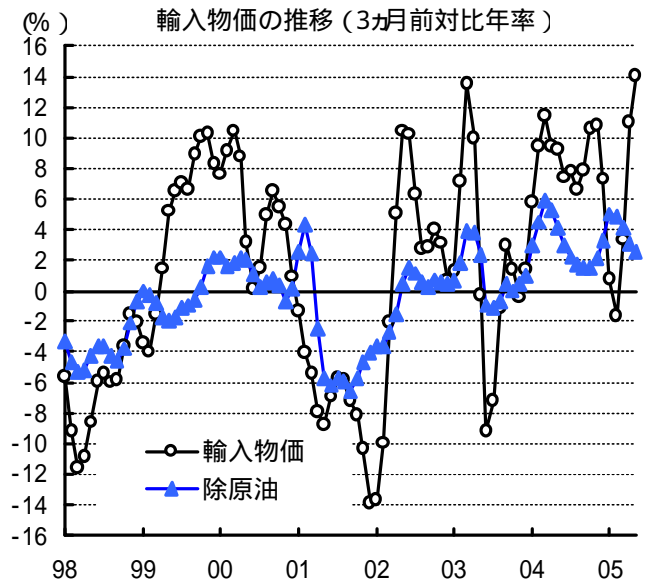
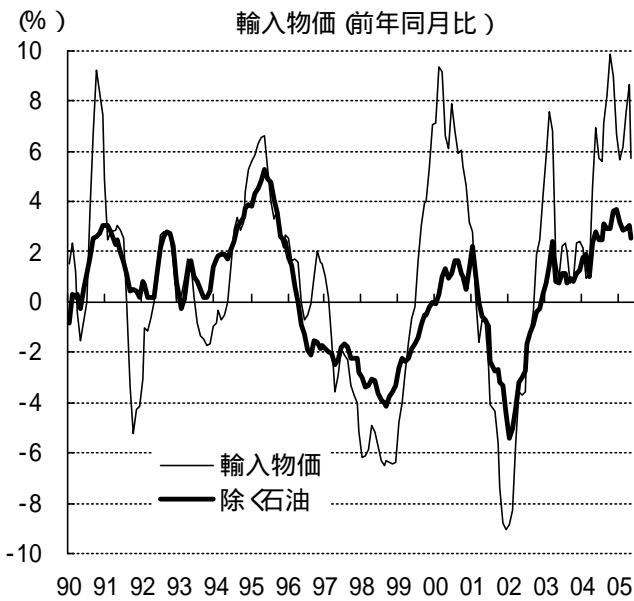
ほぼ全地域からの 輸入物価が低下

地域別の輸入物価をみると、石油価格の鈍化、ドル高によってほぼ全地域からの輸入物価が低下した。カナダが前月比 1.5% (前年比+8.3%)、メキシコが同 0.5% (同+6.4%)、EUが同 0.3% (同+5.5%)と下落に転じた。一方、アジアからの輸入物価をみると、通貨元がドルペッグされている中国は同+0.1% (同 0.4%)と上昇したものの、日本が同+0.0% (同+0.9%)、N I E Sが同0.0% (同 1.1%)にとどまり、A S E A Nが同 0.5% (同 1.3%)と下落したようにハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価も抑制されている。

交易条件(輸出物価/輸入物価)は、輸出物価が前年同月比+2.7%とプラス幅が縮小した一方、輸入物価が同+5.7%と急減速したため、足元でマイナス幅が縮小しており、マクロでみた米国の対外収益性は改善に向かっている。

今後、輸入物価の 上昇圧力緩和が見 込まれる

今後の輸入物価を取巻く環境については、世界的な景気の拡大ペース加速に伴う原油の供給不足懸念や、過剰な流動性を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。ただし、昨年のようなペースでの上昇が見込み難いことや、金利差拡大によってドル実効レート下落が予想し難いことから、今後輸入物価の上昇圧力は緩和していこう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。